



👁️👁️ みどころ

2004年のカンヌ国際映画祭で主演女優賞を受賞したマギー・チャンの感動作が、なぜか今公開！チャイナドレス姿が生ツバものだった『花様年華』(00年)とは全く異なり、息子との絆をよりどころに再生していく母親像を、1964年生まれの英語・フランス語ペラペラの美女が見事に熱演！のりピーこと酒井法子の逮捕劇にはビックリだが、のりピーには本作を参考にしての再生を期待したい。マギー・チャンがラストに歌う、けだるい感じの英語ソングにも注目！ちなみに、これを竹内まりやの『人生の扉』と対比してみると？

* * * * *

マギー・チャンに一目ボレ

私が張曼玉(マギー・チャン)という美人女優をはじめて知ったのは、2000年3月29日に『宋家の三姉妹』(97年)を観た時。そこで次女慶齡役を演じた彼女は、前半は孫文の秘書としてテキパキと仕事をこなす優秀な助手の姿を、後半は中国共産党の闘士として蒋介石と対決する姿を見事に演じていた(『シネマルーム5』170頁参照)。私はこの時マギー・チャンに一目ボレ。

マギー・チャンという覚えやすい名前だったこともあり、その時すぐにこの美女の名前と顔を覚えたが、生ツバものと言うべきチャイナドレス姿の美しさを堪能させてくれたのが、02年12月30日に観た『花様年華』(00年)(『シネマルーム5』250頁参照)。

ベルリンに続いてカンヌを制覇！

その後私が観たマギー・チャン出演作は、『欲望の翼』（90年）（『シネマルーム5』227頁参照）、『楽園の瑕』（94年）（『シネマルーム5』231頁参照）、『オーギュスタン／恋々風塵』（99年）（『シネマルーム9』329頁参照）、『HERO（英雄）』（02年）（『シネマルーム5』134頁参照）、『2046』（04年）（『シネマルーム5』359頁参照）だが、この中には彼女が主演女優賞を受賞した作品が含まれていない。

マギー・チャンは、91年の『ロアン・リンユイ』で第42回ベルリン国際映画祭で主演女優賞を受賞したのに続き、本作で2004年、第57回カンヌ国際映画祭主演女優賞を受賞している。つまり、ベルリンに続いてカンヌを制覇したわけだが、そんな2004年の本作が、なぜ今頃日本で公開？それはひょっとして、2007年の第60回カンヌ国際映画祭で彼女が審査員を務めたため？

『花様年華』では、梁朝偉（トニー・レオン）がカンヌ国際映画祭主演男優賞を受賞したのに、あれほど美しいチャイナドレス姿を披露したマギー・チャンが主演女優賞を受賞できなかったのは残念だった。ところが2004年の本作で、マギー・チャンがカンヌ国際映画祭主演女優賞を受賞したのは、色気や美しさだけでなく、苦悩から再生していくヒロイン、エミリー・ワンを演じたマギー・チャンの姿に審査員たちが共感したためだ。

なぜ、英語とフランス語をペラペラと？

てっきり中国映画だと思って05年12月25日に観たのが『オーギュスタン／恋々風塵』だが、実はこれはフランス映画。そこで当然に抱いた疑問は、なぜマギー・チャンはフランス語をしゃべれるの？ということ。それは、1996年の『イルマ・ヴェップ』のヒロイン役としてフランス映画界に進出した彼女が、同作を監督したオリヴィエ・アサイヤス監督と1998年12月に結婚したため。オリヴィエ・アサイヤス監督とは3年後に離婚したらしいが、それは家庭の事情によるもの。つまり、映画人としての2人の活動は離婚後も続き、離婚カップルで製作し、カンヌ国際映画祭で主演女優賞を射止めたのがこの『クリーン』というわけだ。

カナダのバンクーバー、フランスのパリ、イギリスのロンドンを舞台とした本作におけるマギー・チャンのセリフは、全編英語とフランス語で、母国語の中国語はなし。「長年フランスで生活しているから当然」と言ってしまうまでもだが、俳優としての研鑽の他、英語、フランス語がペラペラというのは、09年4月から中国語会話の勉強を始め、その難しさに苦しんでいる私からみれば驚異的！

ヒロインの夢は？その挫折と再生は？

歌手としての成功を夢見ていたエミリーは、ロックスターの夫をドラッグの過剰摂取で失うことに。エミリーは一部の人間から「リーをドラッグ漬けにして殺した」と責められたうえ、自らもドラッグの使用と不法所持で半年間の刑務所生活を送ることに。そして、出所後愛する息子ジェイ（ジェームズ・デニス）を預けていた義父のアルブレヒト（ニック・ノルティ）に再会すると、アルブレヒトからは「ジェイとはしばらく距離を置いてほしい」とやんわり再会を拒否されるという更なる試練に。さあ、エミリーはそんな厳しい現実の中でもがき苦しみかつ闘いながら、苦境を克服し、母として歌手として自分の人生を再生することができるのだろうか？

そんな感動ドラマのヒロインを、感動的に演じたマギー・チャンの魅力を審査員たちは全員絶賛！

のりピーこそ、再生のためにこんな映画を！

芸能人たちがドラッグ汚染にさらされていることは、近時ののりピーこと酒井法子の夫高相祐一や押尾学の逮捕劇をみても明らかだ。そんな中、日本人のみならず中国人まであっと驚いたのが、のりピー自身の逮捕劇。これによってのりピーは清純派イメージが一挙に崩壊してしまったが、本作におけるエミリーもレベルこそ違え、それと同じようなもの？

のりピーの子供は10歳だが、エミリーの息子ジェイは？また、のりピーは38歳だが、エミリーは？正確なところはわからないが、乱暴に言ってしまうと、それは似たようなもの。本作でエミリーがみせるドラッグとの闘い、仕事探しの努力、子供との絆を軸とした人生再生への頑張り、そして、歌手になるという夢への執念と努力をしっかりと理解し、それを心に刻めば、のりピーだって再生は可能なはずだ。もちろん今は起訴されるか否か、起訴されたら裁判はどうなるか、などが焦点だが、そんなことがワイドショーの注目を集めるのはごく短期間だけ。エミリーの闘いと再生が半年間の刑務所暮らし終了後から始まったように、のりピーの再生も罪の償いが終わってからがスタートだ。今回の事件が落ち着いたら、のりピーこそ再生のためにこんな映画を！

真の支えはジェイ、スパイスは女友達

出所後に勤め始めた中華料理店でのエミリーの働き振りを見ていると、どこか投げやりである上、ドラッグの陰がつきまとっている。これでは雇い主側に不安があるのは当然で、ある日ヘマをすてかすたとちまちくビに。こんな風にまともな仕事に就けず、ドラッグも完全に断ちきれないエミリーに対して、ジェイを預かるアルブレヒトが厳しく接したのは当然だ。しかし、ジェイと会えないのはエミリーにとって最高に辛いこと。したがって、その後のエミリーの努力を真に支えたものがジェイだったことはしっかり確認する必要が

あるし、そんな息子を想う母親像を見事に演じるマギー・チャンの魅力もしっかり確認したい。

他方、エミリー再生のスパイス役を果たすのが、TV界で活躍中の旧友イレーヌ（ジャンヌ・バリバル）とミュージシャンの友人エレナ（ベアトリス・ダル）。この2人の女友達が果たす役割についても、しっかりあなた自身の目で確認してもらいたい。

子供を？それとも音楽を？

「義理と人情をはかりにかけりゃ、義理が重たい男の世界」。私の大学時代にはそんな歌詞のヒット曲もあったが、息子との面会を取る？それともサンフランシスコへ渡ってのレコーディングのチャンスを取る？そんな究極の選択を迫られた時、エミリーはどちらを？

映画後半、やっと立ち直りかけ、レコーディングのチャンスまでつかんだエミリーの前にそんなシーンが登場する。もちろんエミリーの選択はジェイとの再会。それによってバイクにまたがり2人で動物園に向かう母と息子の感動的な再会が実現したが、これによって過去のすべてが許されるわけではない。母と子の絆の再生はこれがスタートになるわけだ。さらにこの再会は一時的なものであり、また離れ離れにならなければならないのも当然だ。こんな体験の中でエミリーが確信したのは、息子との絆を取り戻すことと歌手への夢を貫くことが決して矛盾しないという当たり前のこと。そりゃ私にとって、弁護士活動と映画評論家活動が決して矛盾しないことと同じようなもの？

マギー・チャンの歌声にも注目！

本作のラストには、エミリーのレコーディングの様子がかなり長いシーンで登場する。このレコーディングが実現したのはエミリーが持ち込んだデモテープが認められたためだが、さてそれはどんな曲？マギー・チャンの歌声にも注目したい。

大ヒット曲『三日月』を歌った絢香は残念ながらバセドウ病の治療に専念するため歌手活動の無期限休止を発表したが、逆にU Aが復活するというのは嬉しいニュース。竹内まりやが50歳になった時に作った『人生の扉』は今や私の愛唱歌となったが、人生の挫折を体験し、そこから苦しい思いをしながら再生してきたエミリーが英語で歌う曲はちょっとけだるい雰囲気的人生ソング。その歌詞の中につまった彼女の数々の思いとは？そして、それを今歌うことができる喜びとは？

こんないい女そしている母親に成長したエミリーを演じた1964年生まれのマギー・チャンに、拍手！

2009（平成21）年8月13日記



「クリーン」

(30日から神戸アートビレッジセンター、10月17日からシネマート心斎橋でそれぞれ公開)



© 2004-Rectangle Productions/Leap Films/
1551264 Ontario Inc./Arte France Cinema

んわり拒否。薬物との闘い、難航する職探しとEの試練が続く。
本作のテーマは挫折と再生だが、Eの再生を支えるのは息子への愛。昔「義理と人情をはかりにかけりや、義理が重たい男の世界」という歌があったが、後半に向けてEは息子との再会とレコーディングのどちらを選択する？ そのも両者は矛盾しないのでは？
ラストはマギーのレコーディング風景。『三日月』が大ヒットした絢香

のりピーこそ本作見るべし！

私が1964年9月生まれのお慶玉という美人香港女優をはじめ観たのは、宋家の三姉妹(97年)。前半は孫文の秘書として、後半は中国共産党の闘士として蒋介石と対決する2女優輪役を見事に演じていた。欲望の翼(90年)や「楽園の眼」(94年)は彼女の若き日の瑞々しさが充滿、他方チャイナドレス

姿が生ツバものだった「花嫁年華」(00年)や鋭いアクションで魅せた「HERO(英雄)」(02年)は有名だが、フランス語を操った「オーギュスタン/恋々風塵」(99年)のマギーを観た人は少ないのでは？ 04年のカンヌ国際映画祭で主演女優賞を受賞した本作が、なぜ今頃日本で公開

た一人息子との再会をや
同映画祭で審査員を務めたためかも？
美女もある時期からは母親役を演じるが、いきなり薬物使用と不法所持で逮捕されるエミリー(E)役はちとキツイ。しかもロックスターの夫は薬物の過剰摂取で死亡したから最悪。Eの夢は歌手になることだが、出所後、義父は預かっていた一人息子との再会をや

の歌手活動無期限休止は残念だが、UAの復活は嬉しい限り。人生の挫折を体験し、そこからは上がったEが歌う新曲のアピール力は？ それはきつと、竹内まりやの「人生の扉」と同じく人生讃歌。のりピーこと酒井法子の公判も決まったが、彼女もEのように今回の挫折を乗り越えてほしいものだ。

大阪日新聞 2009(平成21)年9月26日